

4. 市政に関する情報の取得状況、今後の財政見通し

問7 あなたは普段、月2回発行されている市の広報「市報こがねい」をどの程度読んでいますか。一つ選んで○を付けてください。			
			%
1	毎号必ず読む	464	55.0
2	時々読む	262	31.0
3	あまり読まない	89	10.5
4	全く読まない	29	3.4
99	無回答	0	0.0
	合計	844	100.0
問8 あなたは普段、小金井市ホームページをどの程度閲覧していますか。二つ選んで○を付けてください。			
			%
1	週1回以上	10	1.2
2	月に2～3回程度	42	5.0
3	月1回程度	85	10.1
4	数カ月に1回以下	356	42.2
5	インターネットは利用していない	345	40.9
99	無回答	6	0.7
	合計	844	100.0
問9 では、あなたは普段、市政に関する情報をどの程度得られていると感じていますか。一つ選んで○を付けてください。			
			%
1	十分得られている	5	0.6
2	ある程度得られている	290	34.4
3	どちらともいえない	222	26.3
4	やや不十分	197	23.3
5	不十分	126	14.9
99	無回答	4	0.5
	合計	844	100.0
問10 あなたは、小金井市の今後の財政の見通しについて、どのようにお考えですか。この中から一つ選んで○を付けてください。			
			%
1	特に問題はない	7	0.8
2	それほど問題はない	23	2.7
3	どちらともいえない	109	12.9
4	ある程度心配である	343	40.6
5	大いに心配である	359	42.5
99	無回答	3	0.4
	合計	844	100.0

問7～問9では、市報こがねい、小金井市ホームページのそれぞれについて閲覧の頻度を尋ねるとともに、市政に関する情報をどの程度得られていると感じているかを質問している。また問10では、小金井市の今後の財政見通しについて考えを尋ねている。

問7から見ていくと、市の広報「市報こがねい」について「毎号必ず読む」という人が全体の半数を超え、「時々読む」と合わせると86%の人が比較的頻繁に目を通してることが分かる。一方問8では、市のホームページを閲覧する頻度は「週1回以上」「月に2～3回程度」「月1回程度」を合計しても約16%にとどまり、インターネットを利用していない人も約4割に上る。すなわち、市政や市民生活に関する情報源として、市の広報は特に重要なものである一方、市のホームページは、現状ではあくまでも補完的な役割を果たすものであると言える。

他方、問9の回答結果を見ると、市政に関する情報について、「十分得られている」との回答はわずかで、「ある程度」と合計しても35%にとどまる。情報源としては他にも、新聞・テレビなどのマスメディアやウェブサイト、近所の人達との会話や地元議員による「議会だより」のようなものが考えられるが、例えば、多くの人の目に触れる新聞やテレビのニュースなどでは、どうしても国政や都政に関する話題が中心となり、市政に関する情報を得る機会に限られていると言える。こうしたことも、問9の回答結果にある程度まで影響しているものと思われる。つまり、問7の集計結果と併せて考慮すると、「市報こがねい」は市民に広く読まれてはいるものの、市政に関する情報源として果たしている役割は、現状においては限定的であると言えるだろう。

小金井市の今後の財政見通しについては、悲観的な見方をしている市民がかなり多いことが問10の結果から読み取れる。「大いに」と「ある程度」を合わせると全体の8割以上が心配であると答えている。財政指標で確認すると、財政の豊かさを示す財政力指数は平成22年度で1.12と全国的に見てもかなり高く、平成16～22年度までは地方交付税の不交付団体であった。一方で、本調査の自由回答などでも記述があったように、小金井市では職員給与の水準の高さがかねてより指摘されており、歳出総額に占める人件費の割合を示す人件費比率は、平成22年度で19.9%と多摩地域の26市の中では狛江市と並んで最も高い。ここ数年の間に駅前再開発が急速に進んだことなどと併せて、市財政の現状を不安視する向きが強かったと考えられる。加えて、小金井市の周辺には、府中市、調布市、武蔵野市など財政的により豊かな隣接自治体があるため、周辺市との比較において今後の市財政を悲観的に捉える傾向もあるようである。なお、年代別でみると、「大いに心配」と答えた割合は40、50代で最も高く、いずれも5割を超えるという傾向も見られた。